

いずみさの教育

NOW

問合先
学校教育課
☎493-2091

外国にルーツがある児童生徒に寄り添うために

大阪府による「日本語指導が必要な児童生徒等在籍状況調査（政令市・夜間学級を除く）（*1）」では、令和7年度の大阪府（政令市・夜間学級を除く）の日本語指導が必要な児童生徒数は3,851人でした。令和4年度は、2,541人であったことからこの3年間で約1,300人増加しています。大阪府の子どもの数は年々減少している一方、日本語指導が必要な児童生徒は年々増加し、今後より一層の増加が見込まれます。本市でも同様の傾向にあり、「令和8年度日本語指導が必要な児童生徒数（*2）」は92人。昨年度の同時期における児童生徒数は79人であり、日本語指導が必要な児童生徒数は年々増加しています。

日本語指導が必要な児童生徒は不安を抱えていることが少なくありません。「急な渡日」「文化のちがい」「日本での学習」「言語のちがい」による教職員やまわりの児童生徒とのコミュニケーションなど、不安の要因は多岐にわたります。その不安に寄り添うため、本市ではこれまで、外国語通訳者の配置や適切な日本語指導の実施など、きめ細やかな支援の充実に

進めてきました。今後はその支援を引き継いでいくとともに、ICT機器を活用するなどしたより一層の支援の充実を図り、日本語指導が必要な児童生徒を含む、すべての子どもたちが安心して学ぶことができる学校づくりをすすめてまいります。また、日本語指導が必要な児童生徒など、外国にルーツがある子どもとの出会いは、他の子どもたちにとって大きな心の成長のきっかけになります。本市小・中学校において、子どもたちが多様な文化に触れ、それぞれの違いを豊かさにとらえ、認め合う「多文化共生」の理念に基づく実践をすすめて、子どもたちに豊かな人権感覚を育んでいきます。

（*1）：海外から帰国した児童生徒、外国人児童生徒、重国籍や保護者の一人が外国籍であるなどの理由で日本語以外の言語を家庭内で使用しているなどの事情により、「日本語で日常会話が十分にできない児童生徒」および「日常会話ができても、学年相当の学習言語能力が不足し、学習活動への取組に支障が生じている児童生徒」（*2）：令和8年5月1日現在

学校園紹介

しあわせになるための3つの力
～日新小学校～

テストの点数だけでは測れない、子どもの意欲、粘り強さ、そして人間関係を築く力。これからの時代を生き抜くために必要な力を、子どもたちが主役となる「児童会活動」を中心に「チャレンジ」「あきらめない」「つながり」の3つの力を育むための取組を進めています。

【チャレンジ 自ら考え、一歩を踏み出す力】

「どうすれば学校がもっと楽しくなるか」を子どもたち自身で考え、新しいアイデアをカタチにあいさつ運動やふわふわ言葉キャンペーンにつなげています。小さな「チャレンジ」の積み重ねは、将来、社会を動かす主体性へとつながっていきます。



【あきらめない 試行錯誤し、最後までやり抜く力】



「自分たちのできる社会貢献は何か」を考え、自発的に行動を起こす。募金活動や青少年赤十字活動は、メンバーで「どうすればもっと伝わるか？」を話し合い、ポスター制作や呼びかけを工夫しながら、あきらめずに取組を進めています。

【つながり 他者を思いやり、共に生きる力】

「異なる学年や多様な考え方を持つ仲間とよい関係をつくるために」たてわり活動やつながりタイムを通して、互いを認め合い、温かい「つながり」で結ばれる学校づくりを児童会が主体となって進めています。

創立50周年を迎えて
～新池中学校～

創立50周年を迎えた新池中学校は、1月18日に記念式典を開催しました。

体育館で行われた式典の前半では来賓の方々からお祝いの言葉をいただき、後半には卒業生の方々からいただいたビデオメッセージを上映しました。

その後、運動場に移動して記念石碑の除幕式を行いました。サプライズゲストのイヌナキンも登場し式典が大いに盛り上がる中、参加者全員で記念写真を撮影しました。その時にドローンで空撮された写真は、PTAからの記念品であるクリアファイルにプリントされて生徒全員に配布されました。また、新池校区の青少年指導員の方々和本校PTAからの記念品として特別にデザインされたタオルも全員に贈られました。

最後は地域の方々が準備してくださった豚汁と巻き寿司をみんなでいただき、温かい雰囲気です式典を終えることができました。

絵画作品を寄贈してくださった卒業生もおられ、地域の方々の新池中学校への深い愛情があふれる式典となりました。

